

Y3-24

当院におけるExacTrac systemを使用したframeless脳定位照射の初期経験

熊本赤十字病院 放射線科¹⁾、
熊本赤十字病院 画像診断治療センター²⁾
馬場 祐之¹⁾、伊藤加奈子¹⁾、東 美菜子¹⁾、
中島 康也¹⁾、菅原 丈志¹⁾、濱田 勝徳¹⁾、
増田 弘明¹⁾、耕 仁征¹⁾、山室 勇太¹⁾、
岡本 好史¹⁾、桑原 珠世²⁾

【目的】exactrac systemを用いた frameless radiosurgeryの有用性について検討する。

【方法】xacTrac systemにて治療を開始する前にファントムを使用して精度検証を行った対症は2009年9月より2011年4月までに当院にて脳定位照射を実施した36例AVM4例、聴神経鞘腫1例の他は転移性脳腫瘍であったSRS単独は21例で、15例では全脳照射が併用されている患者固定はシェルを使用し、治療前日にシェル固定下で撮影したCTと直近の造影MRIをBrainLab社のiPlan上でimage-fusionして治療計画を作成した。ExacTracを使用して位置決めを行いM3 micro multi-leafを装着した東芝（シーメンス）製linacにて照射を行った。

【成績】治療開始前に行ったExacTrac systemでの位置決め精度検証では誤差は1mm以下で、治療寝台の回転による誤差を考慮すると金属フレームによる固定と同等以上の精度が確保されていた。SRS後3ヶ月以上の追跡調査が可能であった17例中15例で病変の著明な縮小もしくは消失を認めた。

【結論】ExacTrac systemを使用したframe-less脳定位照射では侵襲的な手技を使用せずに高い精度での治療が可能であった。従来のhead-frame固定による脳定位照射と比較して、局所麻酔も不要で、患者拘束時間も短く、患者の負担を大きく軽減できる。

Y3-25

当院におけるがん化学療法レジメン管理 - 経口抗がん剤管理とレジメン管理情報

唐津赤十字病院 薬剤科
河野健太郎^{かわの けんたろう}、鮫島隆一郎

我々は、前回本学会総会において、院内での化学療法レジメン管理について報告した。経口抗がん剤を含む外来化学療法では、院外の処方箋応需薬局での経口抗がん剤監査が必要となるため、地域の薬剤師とのレジメン情報の共有が必須となる。そこで、今回は当院における経口抗がん剤管理と地域連携に伴うレジメン情報の提供について報告する。

【概要】経口抗がん剤は、全て処方セット展開からしか処方できない形式とした。処方セット展開では、レジメン名、適応癌腫名（英名）、用法、基準用量、投与期間、基本的注意事項が処方箋上に印字されるように設定した。また、レジメン審査委員会にて承認されたレジメンを地域に公開できるようにした。

【目的】人為的オーダーミスの抑制。医療チーム全体が、選択されたレジメンや抗がん剤の用法・用量等の基本的注意事項を処方箋上で確認できる。院外処方箋では、処方箋応需薬局が処方箋情報および公開されたレジメン内容を確認して投薬することができる。

【管理方法】院内に採用された経口抗がん剤は、全てレジメン毎に処方セット展開形式で処方できるように構築した。展開された情報は、患者背景等により処方医がコメント内容を修正および削除することが可能である。院内で承認されたレジメンは、調剤薬局等の地域医療機関に情報公開を行い、処方箋でレジメンの確認と監査ができるように整備した。

【問題点】オーダーリングシステムにおいて注射用抗がん剤と経口抗がん剤が連動していない。レジメンが変更された場合や処方調整を行う場合、適切に処方展開とコメント修正する必要がある。レジメン情報が流動的に更新されるため、地域への情報更新に隔たりが生じる。